

'70

会報



THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

鶴岡ロータリー

第 575 号

1970.10.27 (火)

例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや

事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内 ☎ 5775

会報はご家族みんなで読みましょう

ゝ隔りを取り除こうゝ

出席報告

本日の出席	会員数 63名 出席数 47名 出席率 74.60%
欠席者	阿宗君、荒明君、安藤君、長谷川(悦)君、林君、五十嵐(三)君、粕川君、加藤君、黒谷君、金野君、三井(徹)君、男網君、斎藤(徳)君、津田君、藪田君、嶺岸君
前回の出席	前回出席率 68.25% 修正出席数 51名 確定出席率 80.95%
マークアップ	林君一酒田東RC 安藤君、長谷川(悦)君、石井君、黒谷君、三井(賢)君、中山君、佐藤(昇)君一鶴岡西RC

スマイル

阿部襄君 叔父にあたる三太郎日記で有名な阿部次郎碑の除幕式で幕をひかれたため。

廖萬江君 10月24日の鶴岡・酒田の合同ゴルフ大会で優勝したため。

長谷川文清君 同上で準優勝したため。

今日のスケジュールの報告 会長

この10月は、日本でロータリークラブが誕

四つのテスト

—言行はこれに照してから—

1. 真実か、どうか
is it the truth?
2. みんなに公平か
is it fair to all concerned?
3. 好意と友情を深めるか
will it build goodwill and better friendships?
4. みんなのためになるかどうか
will it be beneficial to all concerned?

生してから恰度50周年の月にあたりますので各ロータリークラブで50年を回顧するというプログラムを持ちなさいという指示がありました。私のところまでこの原稿がきているので、これに5分間位費させていただき、引続き委員会の報告の後、皆様のお手許に配られた中国料理の資料に拠り、興味のあるお話を廖さんからやっていただきます。

礼状の披露 上林一郎君

過日飛騨高山に参りましたのち、宇野英太郎氏から、礼状が参りましたので一寸読み上げます。

此の頃は御丁重なる芳墨に接し、かつ御地名産の大好物を取揃え御送り下さいまして恐縮致しております。厚く御礼申し上げます。

また、会長さんの御丁重なる御挨拶および御地バーナーまで取揃えお送り下さいましたことを厚く御礼申し上げるとともに、皆様にもよろしくお伝え下さいませ。早速当クラブに届け、例会の節御披露申し上げたいと存じますので、その点よろしく皆様に御披露して下さい。というような手紙が参りましたので御報告させていただきます。

会長報告

理事会を明日(10月28日)午後6時からここでやりたいと思います。

それには、社会奉仕の活動として時期もせまってきた、新しく出来た老人ホームにスト

ープを寄贈するとか、下半期の予算の見直しそれから文化会館、前の郡役所の移転の問題市の文化財保護の問題、ファイアサイドミーティングの実施について、それから会員増強のこと、また公式訪問前にクラブ協議会も行わなければならないなど、盛り沢山の議題がありますので大変恐縮ですが、関係の方々のご出席の上、よろしくご協力下さることをおねがいいたします。

それから先程申し上げた日本にロータリークラブが出来てから50周年に当たりますが、それに係る原稿がきているので、これを読み上げさせていただけます。日本でどのようなロータリーの発展をしてきたかということ、会員の皆様から是非知っていただくようにとのことです。

(この原稿は稿を改めて別紙に記録してありますので、ご高覧ねがいます)

クリスマスカード発送について 張 紹淵君

10月23日のことです。バーナーを交換したロータリークラブの会長会員宛に、挨拶状とクリスマスカードを贈りました。全部で130枚贈りましたが、その送料は安価で3,250円でありました。一通の船送料は25円でしたのでご報告申し上げます。

ファアサイドミーティングについて

鈴木善作君

6日の例会で、会長さんからロータリー情報委員会が主催し、ファイアサイドミーティングを今月中にやるようにとのご指示を受けましたので、11月9日(月)午後6時半ひさごやにおいて(会費は1,000円)開催したいと思えます。これは幹事さんのアドバイスもあり親睦委員長のご了解のもと、そのように行いたいと思えますので、新会員の方々は是非共御出席をおねがいいたします。なお前元会長の方々、幹事であった方々、その他多数の会員のご出席をおねがいいたします。

特に歴代の会長さんからは、当日ファイアサイドミーティングのあり方について何卒ご指導のことをお願いいたします。

新会員は、ロータリーのことを知り、会員の名前を知り、友情をたかめるために胸襟を開いて語りあう機会でもありますのでどうぞ出席のほどおねがいいたします。

なお今日の例会に欠席の会員には、後刻事務局よりご通知することにいたします。

中国料理について 廖 萬江君

お手許に配られた資料の順に従ってご説明いたします。

第1頁にあります中国料理の系統と特色から申し上げますと、今私が酒田でやっている

店が北方系の北京料理であります。この北京料理というのが味がうす味であるということで、日本の方には親まれていた料理の一つであります。その反面油くくて、しつこいというのに広東料理というのがあります。比較的都会では北京料理が喜ばれているようでありました。

そのつぎの中国料理の材料の切り方、これが非常に大事でありまして、メニューをみるときにスー即ち糸ですが、糸ということは線という意味です。それから片は文字の通りです。丁というのは角切のことです。塊はかたまり、条は線より太いものという風に、ご理解ねがえましたら大体中華料理の切り方がわかるでないかと思われまして。

今のは主材料の切り方でありまして副材料は、極力主材料の形に合わせるというのが普通の切り方でありまして。

それから、更に料理を注文されるときに大事なことは、いわゆる揚げものであるか、炒めものであるか、あるいは蒸しものであるかと、その見分けはどこでするのですかとよくきかれるのですが、第2頁のトップに書いてあるように大体10種類程ありますが、普通の場合は4種類位、いわゆる炒めもの、揚げもの、煮込みもの、あんかけものと大体これ位の範囲で間に合うと思います。以上材料の切り方、調理の仕方について申し上げましたのです。

これから申し上げる一番肝心なことは、日本の皆さんが中国料理を食べるときに、食べたいのですが注文の仕方がわからない。あるいは値段が高いでないかというような話をよくきかれますので、いろいろ頭をしばってつくったのがこのメニューでめります。

よくなれていない方は、お店に5人位で入ってくると、八宝菜5つ、酢豚5つ、という風に注文されるのです。私共がみると同じものを1つ1皿と云っても1人前では少し多いのです。大体小の1皿というのが4人まで召し上れる分量ですが、それを酢豚5つ、八宝菜5つ注文してはとても食べ切れるものではないし、残してしまうのでお金をかけてもつたないという具合になるのであります。

そこで、こういう風にご説明申し上げたのは、Bのところですが、大体お一人様のときには自分の好きなものを1品か2品、その儘注文して召し上げればよいのですが、人数がふえた場合には、中盆とか大盆ということを考えながら注文されるとうよいと思います。それには各々が注文されないで、5人様なら相談し合って先ず何を食べようかということを考えられた方がいいと思います。鳥の丸揚げ1つと、あるいは魚の料理1つという風になりま

すが、一番大事なことは、最初に材料別に何を召し上げるかということ、例えば豚肉を1種類また鶏肉を1種類、野菜1種類、魚1種類という風に4品とられる場合には、先ず材料別に分けて考えて下さい。そしてその材料を決めた時点でメニューをお開きにして、同じ鶏料理にもこういうのがある、同じ豚料理にもこういうのがあるということから、おもしろなものからピックアップされて注文された方が、一番賢明なやり方です。

ところが仲々そう申し上げても、実際になるとメニューの種類が多過ぎて、目移りして大変なやまれるという場合が多いらしくて、お客さんとしては自分の食べたいものが仲々思う通りに注文するのが難しいようであります。

そのために3頁に、大体お客さんの人数とお値段に合わせた範囲内で私の方で考えてアレンジしてみたのがこの献立表であります。

俗に皆様がおっしゃるテーブル料理というのがこれですが、普通テーブル料理といえますと8,000円位からがテーブル料理でありまして、2,000円、3,000円といえますのは、アラカートの料理に属します。ですけれどもこういう風に申し上げた方がわかり易いと思ひ、このように書いたのであります。

例えば3頁の一番の2000円は2~3人で、料理が3品にスープがついてデザートがつくという仕組になっておりますが、この料理について何回行っても、同じような料理しか食べられないかと云うと、そうではなく料理は替えていただいて結構でございます。そのときウエトレスに申し付けただけで適当な料理に替えさせていただきます。資料には一万円までのものを書いて見ましたが、次の5頁に宴会のテーブル料理というのが書いてあります。これが普通いところのテーブル料理であります。

ここに書いてある値段であります、大体酒田で私どもがやっている場合には、ここに書いてある1000円、1200円、1500円、2000円2500円、3000円までありますが、大体1200円位までの料理が中であります。1000×10人=10000円と書いてありますが、これが最低限度のテーブルの値段であります。これを割ってしまおうと、もう一品料理ということになります、大体1人様の単価が1200円の場合が中程度の料理と思つていただければ、山形にお出でするときでも、仙台にお出でするときにも大体通用すると思ひます。なお一寸いいものが食べたいという場合には1500円ということであれば殆んど満足出来る料理が出ると思ひます。もっとも東京にお出でるときはこれでは間に合わなく、2000円や2500円になるという

例も沢山あります。

この注文のされ方ではありますが、前の頁のように仕組んである場合こは、7番の8000円呉れとか、5番の6000円くれということですのでみますけれども、テーブル料理の場合にはなるべくお委せいただいた方が一番賢明な注文の仕方です。例えば10人様で15000円の一卓という風に申されましたら、特に自分なりお客さんが好まれる料理がありましたら、その中で特に好きなものを1品か2品御指定をいたしまして、その他はコックの方にお委せいただくようにした方がよろしうございますといひますのは、コックの方ではそれによって野菜、鶏、肉、或は魚その他いろんな材料をアレンジして適当につくります。そうしないと、お客様の方から全部ご指定をいただいた場合には、片よつた非常に変な献立になってしまいます。例えば酢豚とか、豚の煮込とか或はチーケンとかいう風に全部同じ味になってしまふ危険があります。

どちらかと申しますとお客様としては不安ですから、委したらどんな料理が出るだろうか、自分の思う料理が行かないのではないかという不安がありますが、概して料理というものは委した方がお得で、おいしいものが出来きます。このことだけは必ず覚えていただいて、そういうときには御利用されれば賢明な行き方ではないかと思ひます。

それから料理の中で私達がお客から注文をいただくときに、何を召し上げますかとおききしますと、八宝菜、酢豚、鯉の丸揚げつきなみな注文を受けますのですが、ここで卒直に申し上げますとこれらの料理は、余りよい方の料理としてランクしておりません。むしろ家庭料理のつまらない料理でないかと思ひます。

それから一番おいしいものを食べたいが全然わからないという場合には、例えば3人でお見えになり一人2000円合計6000円で一番うまいものをつくってくれと申されるのも一つの方法であります。そのようなときにあとでがっかりするとか、期待を裏切られたなどという事は絶対にないと思ひます。といひますのは材料を豊富に取揃えておりますので、どういふ変化にそなえても充分に間に合う状態にあります。

私の酒田の店で常時出来る料理の種類は、170種から180種類あります。この種類を全部こなしているのとありますから、お客様の御期待に背くようなことはないと思ひますので安心してどうぞ申し付けて下さい。

次に6頁から8頁に一品料理を書いてありますが、これは俗に云うアラカルト即ち自分の好きでこのメニューからご指定なさつて註

文なされるアラカルト方式のものであります。これは大体一皿の場合は2~3人様までですが、4~5人、5~6人になりますと中皿即ち中皿ということに御指定下さい。それから、7~8人になれば大皿と申されると、分量において大体間に合うかと存じます。

中皿は大體小皿の5割増の値段です。大皿が倍になります。

最後に10頁のみもので老酒と茅台酒とがありますが、この老酒について一言簡単に説明しますと、老というのは日本では老舗とかいって老というのは非常に有名であるとか、あるいは、しにせというように使われておりますが、中国でも老というのは敬つて使う言葉ですから、酒の場合銘酒だということになります。老酒というのは一つの固有名詞ではなくて、老酒というのは大体6種類あります。6種類のうちで老酒の中の何々酒、何々酒ということになります。私のところで扱っているのは老酒の中のいはゆる花彫紹興酒を使っております。この紹興酒の特色といえますと、最初から二回目位までにおのみになる方は、葉くさくで一寸お口に合わないというような感もされたいと思いますが、3、4回召し上っているうちに、清酒よりおいしいと思われる方が非常にふえるのではないかと思います。

と申しますのは、可成の分量をお飲みになりまして翌日頭に残らないというのが一番の特長です。で私もよくしりませんが蒸留されているお酒だと云います。即ちウイスキーみたいなもので頭にのこらないのではないかと思います。勿論分量がふえれば腰もふらつきますが頭の方は何でもない筈であります。それから茅台酒これは非常に有名なお酒でよく中共にいらした議員諸公が口を揃えてお賞めになる酒です。この酒は無色透明で、見たところ焼酎みたいな感がいたします。ところが、このお酒は非常によい酒で、世界のアルコール飲料のコントロールに出品しまして一位をとったという記録が残っております。これは度数が強くて60度近いじゃないかと思えます。老酒の17度、18度に比べますとこの酒は非常に度数が強いのであります。マッチをすって近づけますと引火します。

ただ老酒を召し上るときに、千葉県でつくった国産の老配というのがありますが、これは値段はおそらく3分の1位でお飲みになれますが、飲んだあとがよくないというのが世上の評判であります。その点混同されないよう留意ねがいます。老酒の場合原料は米と高りゃんでつくりますが、粉が入る場合もあります。同じ老酒でも、中国では産地によって造り方がちがいますが、一番いいのは今の花彫

紹興酒で、花彫紹興酒というのは、浙江省の紹興というところの地名をとったものであります。私もよくは知りませんが、この酒をつくる場合に原料もさることながら水が非常に大事だということで、夜中皆が寝しずまって船も皆とまったあとで、木舟を浮べて、揚子江をさかのぼって、上流で舟を2~3時間とめて全然波が動かなくなってから舟倉の栓をぬいて、その水を静に吸い上げてそれを工場に持って行くという風に苦心されているそうです。

今台湾でもつくっております。台中のほりというところでもつくっておりますが、どうして台中でつくっているかと言いますとほりの水が台湾では酒に一番よい水だというそうです。

あそこは気候が非常によくて、年間を通じて、うす衣一枚で充分に合っているような土地柄ですから水も非常によい水だということが定評で、老酒もそこでつくっているそうです。

最後におみやげの肉まんじゅうのところですが、それは私共のつくっているものは、街で売り出されている肉まんじゅうとは多少ちがいます。値段も1ヶ50円で高うございますが、味の方は風味たっぷりと言えますので精々御利用下さいませ。

それから今日會長さんからメニューばかりよこして、ご馳走の方はおあずけだと申されましたが、実は、このご説明を申し上げるときは3、4品何か料酒をそえて、そして召し上がっていただきながらご説明するつもりでございましたが、御承知のように中国料理というものは冷めてしまうとどうにもならぬというのが大きな欠点で、そのために今日は間に合わなかつたのですが、11月中に何かの方法を考え、この主人様とも相談して成るべく熱いものを皆さんに差し上げたいと思いますので今少々お待ちのほどおねがいたします。

幹事報告

- (1) チャーターナイトの申込
温海RC 10/31 メチ
- (2) 会報到着
余目RC、石巻東RC、新発田RC
- (3) 例会変更
酒田RC 10/28(水) RM6 相馬屋
- (4) 1971年版ロータリーダイアリーの追加注文のお願い 一部 ¥600
- (5) 次回11/3例会は文化の日につき休会
- (6) 鶴岡ユネスコ高等部主催世界児童画展案内
11/1、2、3 於 致道博物館旧館
AM9~PH4 入場無料

日本ロータリー誕生50周年に際して

本年は、日本にロータリーが生れてから、50年目にあたります。

このことは皆さますでにご承知のことではありますが、この時にあたり、創立当初を回顧してみるのも、あながちむだではありません。

いまから51年前の、大正8年のことであります。当時三井財閥の重役として令名のあった米山梅吉さんは目賀田男爵を団長とする、遣米使節団の一員として、アメリカ各地を訪問したのでありますが、その翌年、テキサス州のダラスで正月を過ぎたおり、三井物産のダラス支店長であった福島喜三次さんに会ったのです。

福島喜三次さんは、数年前から、ダラスのロータリークラブの会員であり、話がたまたま、ロータリーにおよんだのであります。

米山さんはこのとき、このロータリーについて非常に興味と関心をしめし、ぜひ日本でもこの組織をつくりたいと念願したのであります。その後、福島さんを通じて文献を集めロータリーを研究した結果、米山さんはシカゴの中央事務局へ、日本もロータリーに加盟したいと申込んだのであります。中央事務局は、そこで、6ヶ月以内に創立することという条件をしめし、米山さんの申出を許可したのであります。

米山さんは、さっそく友人や知人を、東京銀行倶楽部へ招集し、この創立をはかったのでありますが、米山さんの熱意をもってしても、人は集らず、6ヶ月の期限も切れてしまいました。この延期を申し出でる事態にいたったのであります。中央事務局は、そこで、横浜のパンフイックライン汽船会社のW・Lジョンソン氏を相談役に推せんし、それ以来、米山さんは同氏とともに創立準備に傾注しました。かくして大正9年10月20日付で、クラブ創立の手續をシカゴに送ったのであります。当時は、現在のごとく航空便ではなく船便であります。このために手續は手まどったのですが、やっと翌年の大正10年4月1日付で、会長のスネデコア (Estes Snedecor) とチェス・ペリー事務総長 (Ches Perry) 署名の認証状が届きました。

ここに、東京ロータリー倶楽部が、24人の創立会員をもって正式に発足いたしました。しかし、当時は欠席者が多く、2週間に一度例会を開く状態でありました。ところが2年たった大正12年に、あの関東大震災が起こり

東京、横浜の大部分は、灰燼に帰してしまつたのです。

この災害の報はいちはやく、世界中に伝わりました。シカゴの事務局でもただちに、必要な物資は何でも送るという慰問の電報を打電してきたのであります。そして25,000ドルを大阪ロータリーの伊藤忠兵衛君の中継ぎでもって送金してきました。他の世界中のクラブも同様に、見舞の電報をよこし、当時世界の各地にあった約500のクラブから、74,000ドルという巨額の義援金をよせてまいりました。(これは現在の金なら1億5千万円ぐらいに当ります)

東京ロータリアンは、その厚い友情に、感激いたしました。ロータリーは、奉仕の理想を標語としていますが、現実に、これほど強い結びつきがあろうとは、いまさらのごとくロータリーを見なおしたのであります。

この友情の義援金は、東京、横浜の小学校の再建、罹災者の救援にむけられ、多くの人々に感謝されましたが、この時以来、東京の会員一同は、ロータリーの精神を、強く追求するようになり、出席励行がゆきわたり、例会も毎週開催のはこびになったのであります。

東京ロータリークラブができて2年後、大正11年11月に、大阪の加島銀行重役の星野行則さんらが発起人となり、シカゴ中央事務局の委託をうけて、25人のチャーター・メンバーをもって、大阪ロータリークラブが創設され、つづいて神戸(大正13年)名古屋(同年)京都(大正14年)横浜(昭和2年)の順で次々に新しいクラブが誕生したのであります。かくして関東大震災を契機として、東京、大阪および各地のロータリーは、発展の途をたどりつづけたのであります。

さて昭和に入りますと、東日本は主として東京が、西日本は主として大阪がスポンサーとなって次から次へと、内地はもちろん朝鮮台湾、満州にまでクラブができ、48クラブ、会員2,142人(昭和15年6月末現在)を数えるほどになりました。ところが昭和6年9月満州事変が勃発し、昭和12年に支那事変となり、日本はあの不幸な戦争に突入していったのであります。軍部はこのころになりますとロータリー国際組織をスパイの団一という偏見をもって対し、ことごとくはロータリーをつぶそうとはかったのであります。

昭和15年8月12日、まず大阪ロータリクラ

ブが国際ロータリーを脱退の巴むない事情となり、相前後して静岡ロータリークラブの解散であります。日本ロータリーの前途は、憂慮すべき事態に入ってきたのであります。

この当時のごとでした。米山さんはある日憲兵隊で非国民あつかいを受けたのであります。米山さんはさっそく、東京の例会で発言しました。日本ロータリーの今後の道は二つあると。ひとつは、このまま例会をつづけて玉碎するか、いまひとつは、会の名前をかえて、ロータリーの精神を守っていくかであるが、自分はこの第二の方法をとりたいた。

米山さんは、涙をのんで東京ロータリークラブを解散し、第二の方法を進めたのであります。昭和15年9月11日のことであります。東京クラブは、翌週から、名を水旺倶楽部とあらためたのであります。

大阪ロータリークラブは金匠会と称しました。しかし定款細則はロータリーそのものであります。この方法をとったクラブはほかにもありますが、戦争はいよいよ急をつけました。とくに太平洋戦争のさなかには東京クラブの例会場の帝国ホテルが空襲で焼失してしまうありさまで、ある会員は鉄かぶとをかぶって例会出席という笑うに笑えぬ姿でした。食事も食糧が配給のため、各自弁当持参でしたが、あくまでロータリーの本分は忘れなかつたのであります。

大戦後、各クラブの会員一同は、ふたたびロータリーの再建を願い、東京クラブではこの復帰委員会を、小松隆さんを委員長として設けましたが、戦争中に外地における日本軍の行為は非難のままであり、RI理事会は難色を示したのであります。

しかしながら、昭和24年、インドよりアメリカへの帰途、ジョージ・ミーンズ現事務総長が来日され、日本のロータリーの実状を調査したのであります。この際、日本のロータリアンは戦争中、会の名前こそかえたが、ロータリー精神を堅く守って9ケ年の長い間、一回の例会も休むことなく継続してきたクラブが14もあることを知ったのであります。この日本のロータリアンの態度が、ロータリー復興の大きな要素となつたのであります。

ミーンズ事務総長は、その後、再び来日され、RI理事会の命により、わが国ロータリーの再建のために、東京を訪れましたが、その際、つぎの条件を私達に提示したのであります。

そのひとつは、クラブ数は7つを越えないこと。新クラブ会員数は、戦前の半分にする。この2つでありました。そこでわれわれは、東京、大阪、名古屋、京都、神戸、福岡、札幌にロータリークラブを組織したので

あります。その後の経過は皆さまのよくご承知のことではありますが、21年をへた今日では全国17の地区に1,000超えるクラブ、49,000人の会員を擁する大組織に発展をとげたのであります。

この結果、アメリカに次いで第二のロータリー国であつたイギリスを追い越して、今では日本は、世界第二の経済産業国であると同様に第二のロータリー国となりました。

これは、ひとえに、米山梅吉さんはじめ多くの先輩諸君が戦争中、ロータリーの将来を深く考え、会の名前を変えても、ロータリーの精神を守りつづけた。この先見の明が、戦後の復帰を、また、今日の発展を約束したものと信ずるものであります。

ロータリーの前途は、平坦なものと考えてはなりません。この日本ロータリー誕生50周年にあたり、奉仕と友愛の精神を、いま一度たしかめようではありませんか。またわれわれ各クラブの組織と奉仕の内容を REVIEW and RENEW して、新しい70年代の要求にマッチするように革新し、そして Bill Walk 国際ロータリー新会長の訴える Bridge the Gaps 人と人との間の、国と国との人間と生活環境の間の、いろいろな隔たりを取り除くことを、奉仕の中心目標として活動を進めようではありませんか。

この原稿は、日本ロータリー誕生50周年を記念して、さる7月1日の全国地区ガバナー会議で委嘱された第366地区直前ガバナー塚本義隆氏（大阪）と第368地区直前ガバナー若林与左工門氏（神戸）が協議の上とりまとめたものであります。

そして、全日本ロータリー各クラブ会長宛てに送付されたもので、わがクラブにおいては、10月27日の例会において、会長が朗読されたのであります。